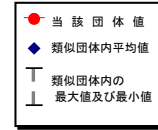


(12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

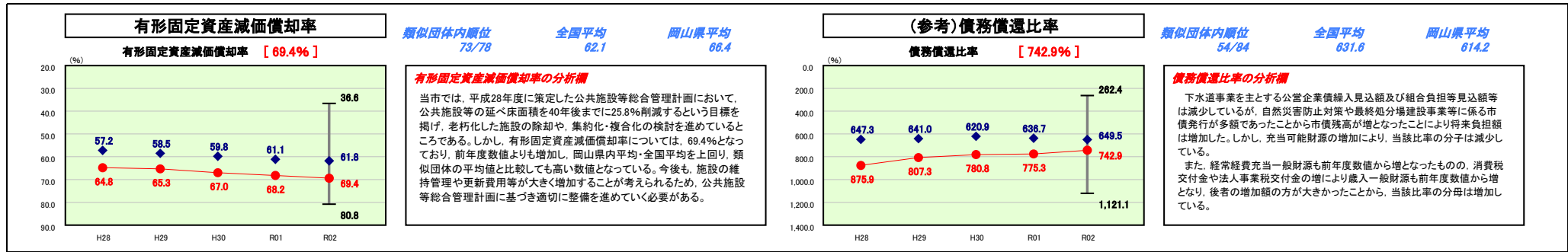
令和2年度

岡山県笠岡市

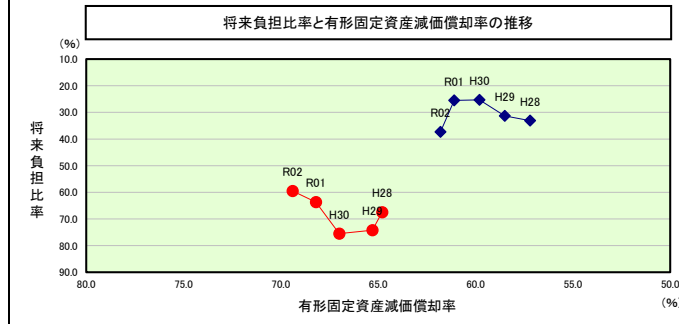
人口	47,160人	(R3.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	46,584人	(R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	136.24	km ²	実質公債費比率	6.4%
歳入総額	29,575,906	千円	将来負担比率	59.5%
歳出総額	28,990,060	千円	市町村類型	H28 II-2 H29 II-2 H30 II-2
実質収支	459,322	千円	(年度毎)	R01 II-2 R02 I-2
標準財政規模	13,273,097	千円		
地方債現在高	26,613,353	千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※ 令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還比率、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析

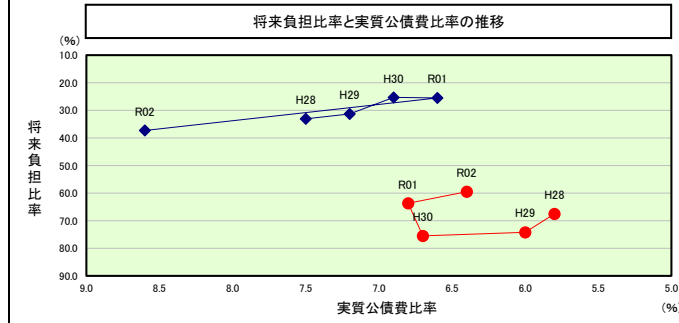


分析欄
 将来負担比率、有形固定資産減価償却率ともに類似団体内平均値を上回っている。既存施設の老朽化が進んでいることから、老朽化施設に対し改修・修繕を行うか、除却・集約化・複合化を行うかを公共施設等総合管理計画に基づき、また、必要に応じて個別施設計画を策定し、対応していかなければならない。

(参考)

	H28	H29	H30	R01	R02	
当該団体値	将来負担比率	67.5	74.2	75.5	63.7	59.5
	有形固定資産減価償却率	64.8	65.3	67.0	68.2	69.4
類似団体内平均値	将来負担比率	33.1	31.3	25.3	25.5	37.3
	有形固定資産減価償却率	57.2	58.5	59.8	61.1	61.8

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



分析欄
 将来負担比率については、類似団体内平均値を上回っている。下水道事業を主とする公営企業等繰入見込額・遡手当負担見込額等の減により前年度に対し0.6ポイント改善した一方、地方債の現在高は2.5ポイント増加している。今後も大規模なハード事業が続くため、将来負担の大幅な増を招かないよう借入金一括償還や事業の見直し等を図っていく必要がある。
 実質公債費比率については単年度では6.7と、前年度より0.4ポイント上昇したものの、平成30年の単年度7.8から大きく改善したため、3年平均では前年度に対し0.4ポイント改善し、6.4となった。当市の目標値である6.5%を達成したものの、平成30年7月豪雨による災害復旧や防災減災事業等の大規模ハード事業による影響により、元利償還金が増加する見込みであることから、比率が上昇しないよう債務の縮減等健全化の取組を引き続き継続していく必要がある。

(参考)

	H28	H29	H30	R01	R02	
当該団体値	将来負担比率	67.5	74.2	75.5	63.7	59.5
	実質公債費比率	5.8	6.0	6.7	6.8	6.4
類似団体内平均値	将来負担比率	33.1	31.3	25.3	25.5	37.3
	実質公債費比率	7.5	7.2	6.9	6.6	8.6